

XXX年

帝国は北方諸国に対し軍事侵攻を開始した

帝国はその圧倒的な軍事力で
領土を拡大していた

ク
ニ
ス
イ
オ
オ

帝国将軍エレナ・ヴァンヒルダ

自ら最前線に出向き
その武勇で討ち取った
敵兵は数知れない

圧倒的な実力と
恵まれた美貌……
そのカリスマ性でいかななく
統率力を発揮していた

どんな相手の命乞いも聞かず
情け容赦なく拷問にかけた

その冷酷な性格と残虐性は
周囲の国々に恐れられていた



エレナはまるで国王のように
私城をいくつも有していた
北方侵攻への軍事拠点にもなるこの城は
捕らえた敵国の兵士たちの収容所にもなっている

おい 1324番を
連れてこい

はっ!

うふふっ♥
今日も楽しめそうね♪

エレナは部下に命じ
捕らえた敵兵を自室に連れてこさせていた
その目的は――







な... 何する気だ

私がお前のイキり立った
肉棒をしゃごいてやろう

ふ...
ぶざけるな!

何を言っている?
こんなに怒張させて
興奮してるようじゃないか

ニチ...

ニチ...



違う…!! しかし
何で俺は勃起してるんだ…

まるで性的興奮を
強制させられているようだ…!!

うふふ♪

うう

ぐう!!

イ……イカされる…っ!

ニチ!!
ニチ!!



おあつ!!

ぐぐぐ

うふふっ♡

これが私の能力だ

帝国将家ヴァンヒルダの人間は
目を合わせた者の人心を掌握し
意のままに操ることが出来る能力を持っている

ハア

ハア

言動や感情…

そして欲求さえもな

なん…だと…？

理解できたか…？
もうお前は私のおもちやだ

ドロ…





そんな…

その顔が見たかったの

屈強な男が
なすすべもなく
恐怖を浮かべる顔♥

ニチッ

ニチ

ニチッ

あっ

うあっ…

ぐっ…

ぐっ… まだ俺は…
負けてな…





ほらあ もっと無様に
精液まき散らしな

射^だ精せば射^だ精すほど
抗う体力も気力も無くなっていくわ

そんな...
この女に負ける...
心が支配される...っ

何もかも搾りつくされるっ...!!

イスけっ♡
イスけっ♡

ズン

ヌチャ

ニチャ

ニチャ

ニチャ

ニチャ

ニチャ

グチャ

グチャ



エレナ…様……
今までの無礼
どうか お許し…くださっ…

お前は私の下僕だ
死ぬまで私に尽くせ
いいな

エレナはその残虐な拷問で
次々と自分に忠実な駒を
増やしていった



破竹の勢いで
次々と北方諸国を攻略していくエレナ

うふふ 脆いものだ
次に我が軍に
滅ぼされる国はどこだ？

はっ 北方の最奥に位置する
小国エルグでございますっ！

ふんっ
齒ごたえが無さそうだな



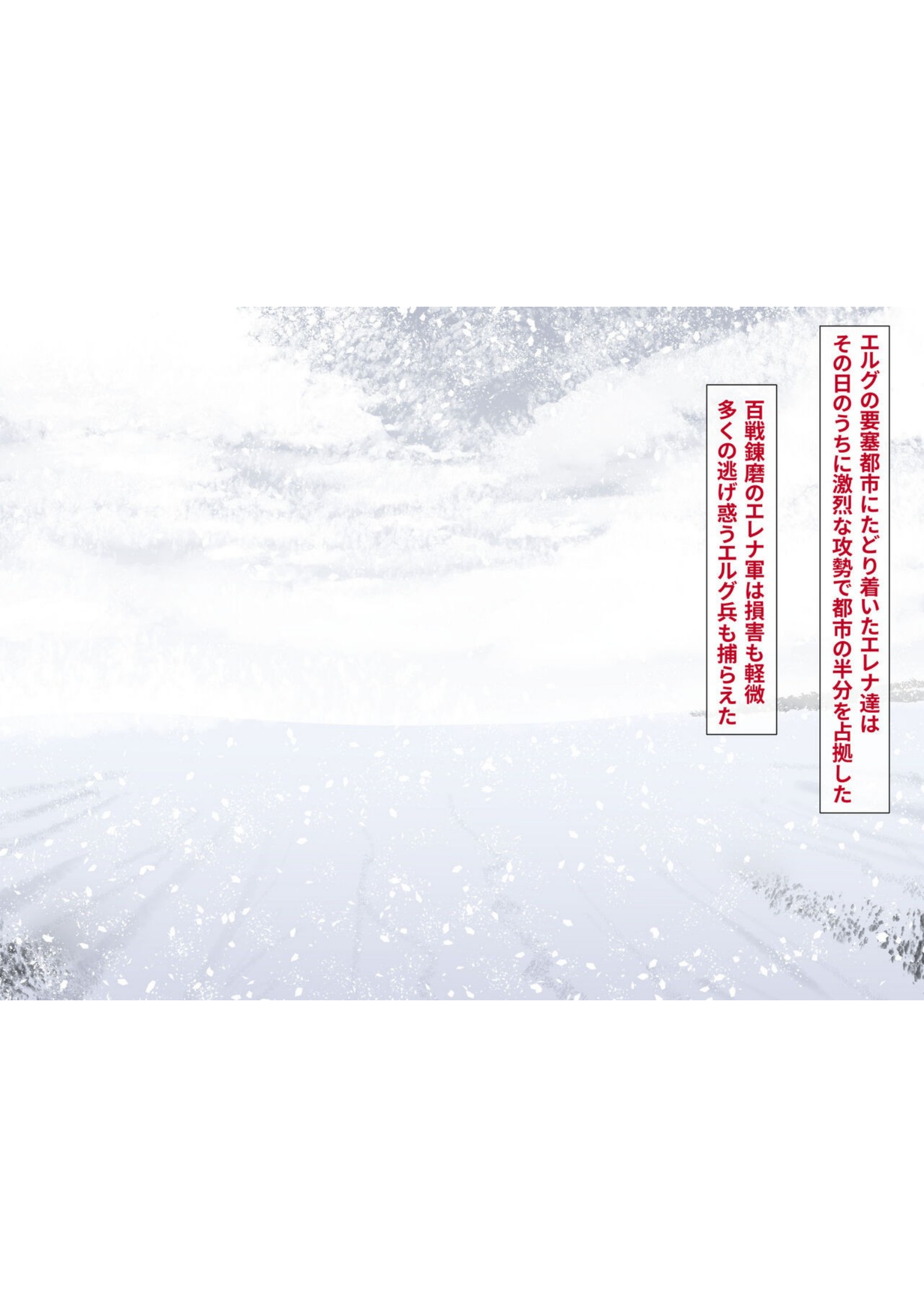
しかしこの極寒の地で
国力を維持してきた国です
何か我々が掴んでいない
策略があるのかも……

それはそれで
面白そうじゃないか

ここまで生ぬるい戦闘しか
してこなかったからな

北方の田舎者どもが
どの程度か知らんが…
せいぜい私を楽しませてくれよ





エルグの要塞都市にたどり着いたエレナ達は
その日のうちに激烈な攻勢で都市の半分を占拠した

百戦錬磨のエレナ軍は損害も軽微
多くの逃げ惑うエルグ兵も捕らえた

エルグの王はどこだ？

見つかりません！

が…この街には地下に通じる路が複数あり
どこかに通じているらしいです！
そちらに逃げたのかもしれない！
今兵士達に探らせております！

ハハハ！

田舎者は土に潜るのが好きなのか
モグラのしっぽを
私も掴みに行つてやろう

よい
私の強さは知っているだろう

エレナ様！
一人では危険です！
誰か護衛を……





人の気配…っ

…!!

なかなか広い地下通路だ

誰だ貴様は？

俺の名前はドルムという
ここの警護を任されている

通常の人間より
一回り以上身体が大きい
なんだ こいつは……？

帝国將軍
エレナ・ヴァンヒルダ…
ここから先に
進むことは出来ないぞ



あら？私を知っているのね
なのに邪魔をするなんて
よほど死にたいのかしら？

やれるものなら
やってみるがいい

……全く恐れ知らずとは
愚かなものよ

この先に何か秘密があるなら
暴いてみるまでよ
うふふ 楽しみだわ





エレナはその強靱な腕力から
繰り出す一閃で

どんな屈強な兵士も一撃で葬ってきた

一瞬で付くかと思われた勝負：

しかし謎の男ドルムは

軽々とエレナの斬撃をかわしていく

あたらない
この私の攻撃が…？

私の能力も効いていない…
なんなの…この男は…



どうした？もう終わりか？
こないならこっちからいかせてもらうぞ

なっ！

いつの間に背後に…

は…はいっ！



ククク…
捕まえた

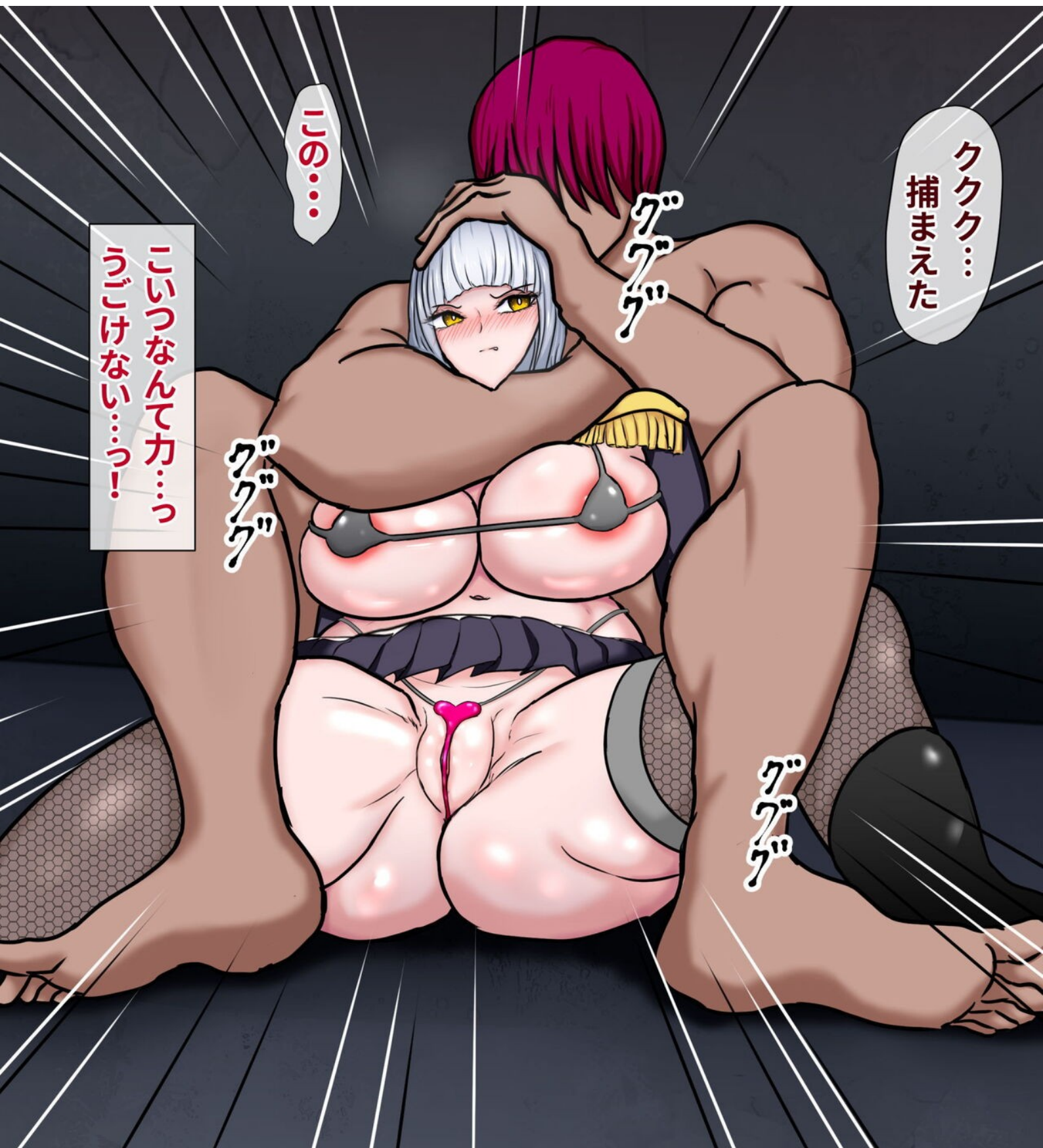
グ
グ
グ

グ
グ
グ

いの…

グ
グ
グ

こいつなんて力…っ
うごけない…っ！



一人で来るとはうかつだったな
自分の力にそれほど
自信をもっていたのか？

こんな弱いクセになW

なっ…
なんだと…っ！

ほら もっと抵抗しないと
落ちちまうぞ？



この私が：
負けるわけなんか：
ない…っ！

っ！！

ッ

ッ



馬鹿……な……

ククク…
脆いもんだ



うまきいったな

しかしまだこの身体に
慣れていないものでな

しばらくお前は
俺の遊び相手になって
もらうぜ



気付くと私はどこかわからない場所にいた
起こされると組み伏せられ犯された

密室の部屋だが
地下室のどこかだろう

今私の軍は
どうなっている…!?

おい 他のことでも
考えてるのか?
余裕じゃないか

ぐっ

グ
チ
ス
ッ

ミ
チ
ッ
ミ
チ
ッ

バ
チ
ス
ッ

バ
チ
ス
ッ

うっ

なかなか締めまりの
いいマンコだ

貴様…
殺してやる!

まだ反抗する気が
あるのか

ククク…お前みたいなの
強情な女嫌いじゃないぞ

シッポ

ほざけっ!!

ドチエッ

ブチムッ



なぜこの辺境に
こんな強い男がいるの!?

この男の力……
なにか魔法で身体能力を
向上させているのか……?
しかし魔力は感じ取れない……



とまどってるようだな

だが考えるだけ無駄だ
お前はここでハメられまくって
俺の従順な肉便器に
なるんだからな

この男…っ

ゴ
ゴ
ゴ

ゴ
ゴ
ゴ

グ
グ
グ

グ
グ
グ





この程度で終わりだと思うなよ
徹底的に蹂躞してやるからな

……っ!

……っ!

ズッ
ビクッ
ズッ
ビクッ

ビクッ

ビクッ

ビクッ





まっ 結局こんなもんか
帝国將軍と聞いていたが
ただの非力な女だったな

コイツ…

グ
グ

グ
グ

キ

バ
バ

おっ？
怒ったか？

私をこんなに
コケにして……



お前ら雑魚男は
私に支配されるためにあるんだよ
この下等生物めっ！

ククク…本音が出たか
しかしこのザマで
よく言えたもんだ

その下等生物の子種を
あふれるほど射精してやろう

や…やめっ…

グ
グ
グ

グ
グ
グ

グ
グ
グ

グ
グ
グ





おおおっ!!

グ

グ

グ

身体は丈夫なようだな
そこは褒めておこう

ククク…
まだ遊べそうだな

隙を見つけて
絶対に殺してやる…っ



でかい乳だ

こんな立派なもの
ぶら下げてるなら
娼婦にでもなった方が
良いんじゃないか？

すぐに人気になれるぞ？

くっ…

いくら経っても
この男は隙を見せなかった

体力と精力も無尽蔵で
一向に衰える気配を見せない



この挑発は
わざと感情を揺さぶり
反応を楽しむつもりだろう

貴様の戯言に
付き合ってる暇はない

ククク

この期に及んで
まだ闘志も折れていないか

やはり俺の見込んだ女だ

グ
ブ
ッ

ズ
ブ
ッ

ブ
ブ
ッ



だが所詮 お前はただの女だ

男の好きなように
犯され感じているだけでいい

……っ

思いあがった女に
俺が本来の雌の役割を
思い出させてやろう

……っ

ズナッ

バチッ



んんっ

ほら どうした
言いたいことがあるのなら
ちゃんと口を
開けて言ったらどうだ？

うぐっ…

私が こんなにも
もてあそばれるなんて…っ

んんっ

ジューポ

ズボ



ぐっ...

高慢な女だもんなあ
もてあそばれて
さぞ悔しいだろう？

うあつ

ああつ

羽交い絞めにされて
抵抗できずにマンコ
突かれまくって....

ああつ

無様に
イキちらせ
負け犬

んっ

グ
グ
グ

グ
ホ
ッ

グ
チ
ッ

グ
ブ
ッ





ククク……
今は必死に耐えて
いるようだ……

すぐにその口から
快楽にあえぐ嬌声を
響かせてやるぞ

んんっ

うぐっ

ハア

ビョ

ハア

ビョ

ビョ

ぐっ……

その後も男は私を犯し続けた

男の圧倒的な力を前に
私は抑えつけられたまま
耐えることしか出来なかった



あれから数日経ったが
私はまだ部屋に監禁されたままだった

ハア

ハア

男はきまぐれのように
拘束を解き
私を解放した

そして私に武器を持たせ
勝負をさせた

男は丸腰で武器を持っていない

私の方が有利のはず…

なのに……



まるで赤子の手をひねるように
何度も組み伏せられた

どちらが格上かを執拗に
理解させるような行為だった

グ
グ
グ

グ
グ
グ

くっ……

グ
グ
グ

この男には勝てないんだと……
従うしかないんだと……
呪いをかけられているようだった

ぐっ……



あ……

あつ……

もうだめだ……

勝てない……

また負ける……

もう
落ち……



男は私に負けグセを
刷り込んでいった







ククク…

なかなか粘ったが…

墜ちるまで……

もう時間の問題だな

ヒタ…

ヒタ…



ククク

おい また
俺の勝ちだぞ

ズ
ブ
ッ

グ
ブ
ッ

シ
ブ
ッ

また私は負けた…
もう… 何度目だ…



どうした？
最初の頃よりずいぶん元気が
なくなっただんじゃないか？

私の軍は何やってるの!?
あのグズどもめ!

もうとつくに地上は
制圧していて
私を探しているはず……

……ここがどこかわからないの!?

バチッ

ブッポ

ジッポ

後で絶対に
吠え面かかせてやるっ

私をこんな目に合わせて
絶対に……っ 許さない……っ

ククク…
まだそんなこと
言ってるのか

ブ
ッ
ホ

ジ
ッ
ホ

ブ
ッ
ホ



もう 思い知っただろう

お前は俺に従うことしか
出来ない無力なメスだ

服従しろエレナ

誰が…
お前なんか……っ

ズ
グ

チュ
グ
グ

グ
グ
グ





おおっ!!

クッ
クッ
クッ

クッ
クッ
クッ

耐えていさえすれば
私の軍がここを突き止めてくれる

はっ…

ビクッ

ビクッ

ビクッ

ビクッ

ハア

ハア

あっ…

はっ…

粘り勝ってコイツを
絶対におもちゃにして
やるんだから

ビクッ





グチャッ

ぐゅ

ぐゅ...

グチャッ

う

く

グホッ

ん

グチャッ

重い…

私の奥まで…
深く突いてくるっ



ブ
チッ

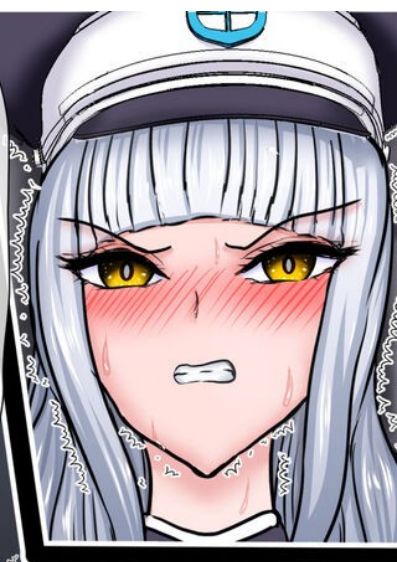
バ
チッ

ジ
ジッ
ホ

ククク
何度でも俺の精液を
注ぎ込んでやるぞ







何度も何度も射精して…っ

よくも飽きないわね…っ

ぐっ…

グ
ブ
ッ

ククク……
その強気な態度が
いつ崩れるのを見るのが
楽しみなだけだ



ズ
ナ
ッ

ブ
チ
ッ

うぐっ

んんっ



しかし お前の精神力も
大したものだ
まだ何か希望でもあるのかな？

ぐっ...

こっちの思惑を
見透かしたような言い方

何でコイツはこんな余裕なの？
自分の国が攻め滅ぼ
されようとしているのに...



グブ

ズブ

ブチ



ククク…
今度は耐えられるかな？

更に激しく突いて…っ!?
まずい… さっき
射精されたばかりなのに…っ

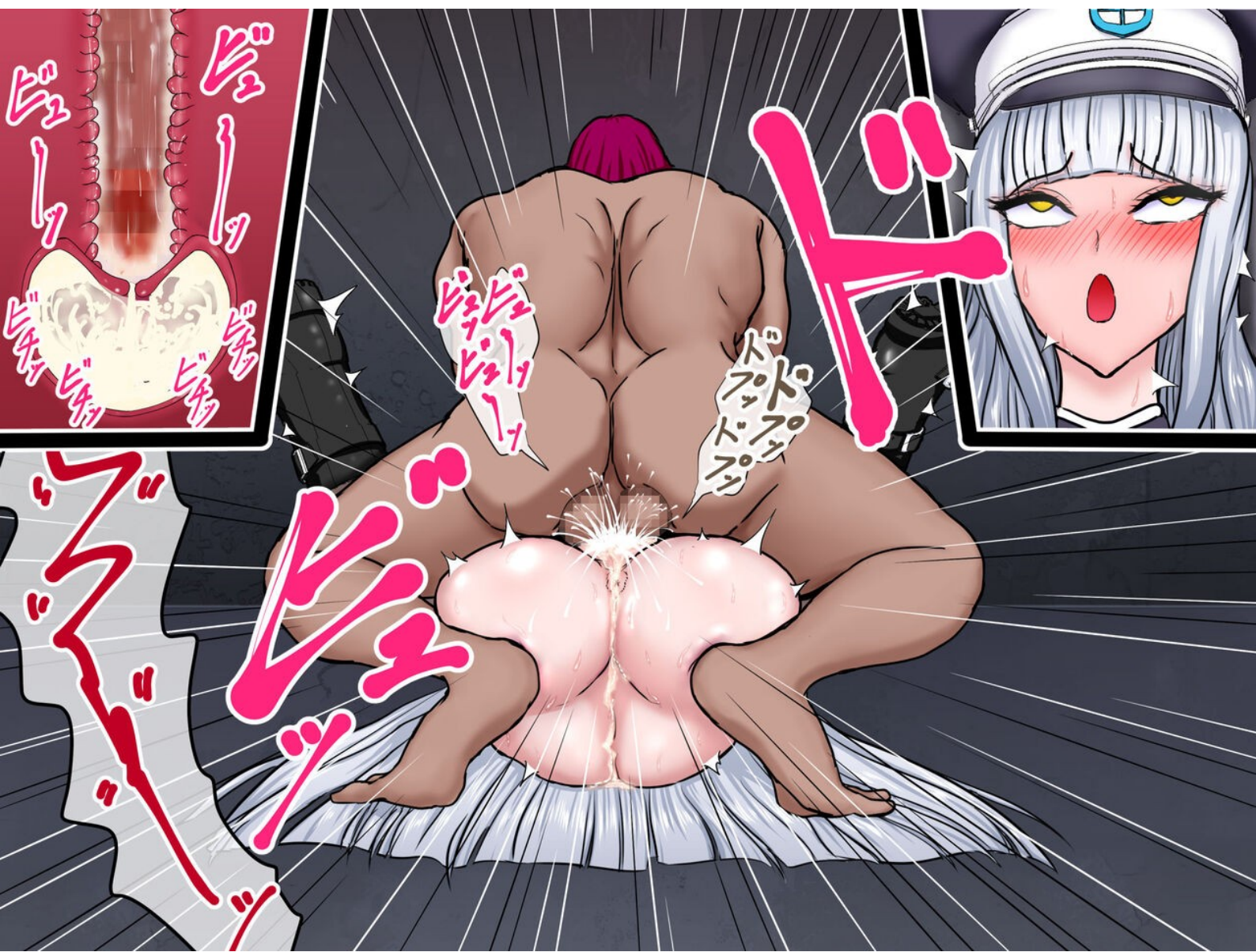
ズ
ズ
ッ

ズ
ズ
ッ

ズ
ズ
ッ

や
やめ
っ







意識…
トビそ…う…



ククク…
これに耐えるとは
やはりお前は強いな



ところで今日良い情報が入った…
いやお前にとっては悪い情報だな

な… 何言って…



地上での戦争は
我々の軍が勝利した

お前の軍は全滅だ

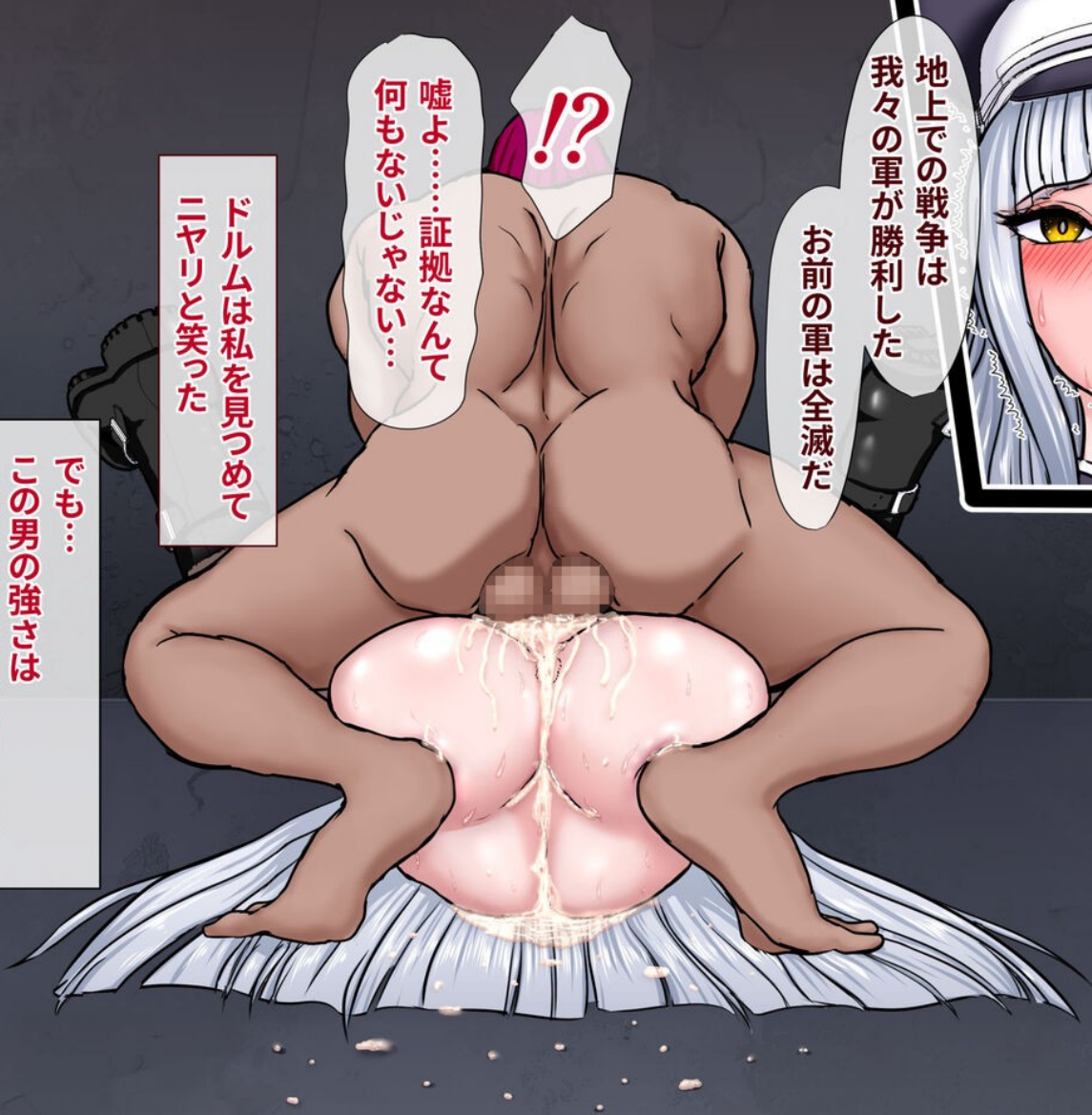
!?

嘘よ……証拠なんて
何もないじゃない……

ドルムは私を見つめて
ニヤリと笑った

でも……
この男の強さは
私が身をもって知っていた……

もしこの国にこんな男が
何人もいたなら……
ひよっとして……



ひ…っ

ひいっ!!

が
が
が

交渉の材料として
生かしておいても良かったが

お前の軍が全滅した今
既にお前に価値など無い

こ… 殺される…っ!



うっ… 殺さないで…

今更怖気づいたのか？

お前は許しを乞う相手に
慈悲などかけなかっただろう

観念しな

そ
そんな……





ハア

ハア

ハア

ハア

こんなところで…
死にたくない…

まだ私は…

わ：私の身体
好きに使っていいから！

何だってするわ！

ほ：ほらっ！

この極上の身体で
あなたの相手を何度でも
してあげるっ！

くばあ♡

あ：あなたを満足させる
自信あるんだから！

私を生かしておいて
損させないわっ！





ふん 興が冷めたな

少しは気概がある女だと
見込んでいたが

なんて情けないやつだ

え……

お前のような
品の無い女などいらん

あ…… ああ……



息がつ……!!

ぐぐぐ

は……
はなしてえっ!!

あっ!

ああっ!



最初の威勢はどうした？
俺を殺すんじゃないのか？

も…もう勝てませんっ

どうか許してください！

降伏しますっ！



ああっ!!

もっと
あがいてみる

そんな
もう勝てませんっ!

ギュー

もう私の
完全敗北です…っ!

いいから全力を
出せ

は…はい…っ!



っ!!

それが全力か？

本当にお前は非力な女だ

ゾッ

ゾッ

苦しいのに……
のしられてるのに……っ

なに……この感覚……

けなされて
侮辱されて……

私は……



全力出しても…っ
ビクともしない……っ

自分の無力を思い知るたびに
胸が突かれたように…

何か気持ちよくなって…

ハア

ゾゾゾゾ

ハア

あ…私って…こんな
非力な女だったんだ…

オスに支配されるだけの存在なんだ…
私じゃもう絶対勝てないんだ…



ドルム様……

もう許して……
くだひゃい……

理解させられた……

マゾヒズム感じて
イク女にされちゃった……

おい 今度は叫んで
助けを求めてみる

は……
はひ……っ



誰かあああつ!!

助けてええええつ!!

あつ...

あああつ

ゾゾゾゾ

ゾゾゾ

帝国將軍の私が...
残虐で恐れられた私が...
こんな無様に命乞いしてる...
こんな情けなくて屈辱的なのに...

苦しいのに.....

いくの

ととまらなつ

落ちちやう...

もう落ちちやう...っ!!

ゾ
シ
ャ
ツ

ゾ
シ
ャ
ツ















ククク…
いいものが見れた
まあまあ楽しめたぜ





おらよ
お前の大好物だ

おっ…♡

おおっ…♡

安心しろ
お前の利用価値は高い
腐っても將軍だからな

まだ生かしておいてやる



あんっ

もっと犯してくださいっ
敗北マンコに
もっとお仕置き
して下さいっ♥

ククク…
すっかり従順になったな
おい肉便器として生かして
やってんだから
感謝しろよ

はいっ…♥
あ…ありがとう
ございますっ♥

ああんっ♥

ああんっ♥

あんっ♥

ジュポ

ミチッ
ミチッ
ミチッ

ドチッ

ブポ

ブ
チッ
チッ
チッ





はい…

そうですっ!

何度も…力でねじ伏せられてっ
自分が…種付けされる…だけの
存在だっけ気付くことが…出来ましたっ♥

申し訳ございませんっ…
身の程もわきまえず…っ
無礼な発言ばかり…っ

あっ♥

驕った女の末路ですっ
私はただの肉ツボですっ
もっと精液
流し込んでください!♥

あっ♥

ズ
ブ
ッ

プ
ィ
ッ
ッ

プ
ィ
ッ
ッ

ブ
ッ
ッ
ッ

グ
ブ
ッ
ッ

潮吹き散らしやがって

本当情けなくて
みじめな女だな
お前は

ははいっわ…私は…
自分の身の程もわきまえず
ドルム様に挑んだ
愚かな馬鹿メスでした…!!

最初から 勝てるわけ
なかったんですっ…!!

ブ
ポ

プ
シ
ツ

ブ
ポ

ズ
ブ
ツ

プ
シ
ツ

グ
ブ
ツ





中に出していただき
ありがとうございます…すっ…♡

も もっと…蹂躪して…
レイプして…くださいっ♡

好きなだけ何発でも
射精してください…♡

このクソ雑魚マンコ使って
お仕置きザーメン…っ
何発でもっ私の中に
コキ捨ててくださいっ!!♡

ハア

ハア

ハア

ビクッ

ビクッ

ビクッ

ドロォ…



あぁっ♡

ブッ
ブッ
ブッ

あっ… 鼻フック♡
こんな贈り物……っ
ありがとうございますっ♡

これがあの
恐れられていた
帝国将軍か

おい こんなに好き勝手
犯されて悔しくもないのか？

ブッ
ブッ
ブッ

あんっ！♡

驕った馬鹿メスの
当然の報いですっ……！

ズッ
ズッ
ズッ

クソ雑魚マンコのくせに……っ
今まで生意気なこと言っ
もっ……申し訳ありませんでしたっ！

ブッ
ブッ
ブッ

俺をおもちやに
するんじゃないのか？

ズチュッ

大変申し訳
ございませんでしたっ…

あぁっ♡

殺すとか
言ってたよな？

わ…私ではドルム様の
足元にも…及びませんっ！

あぁんっ！！

ズチュッ

あっ

バチュッ







そうだ お前は
ただメス顔晒して
従ってればいい

お前はただ犯されるだけの
性処理玩具だ
他のことは考えるな

いいな?

は...はい...♡

んっ♡

んっ♡

グチスッ

ズチスッ

ズチスッ

ズチスッ



無様にまたいったか…

あつ…

あああつ……♥

この身…

ドルム様に…

一生…捧げます……っ♥

ドボォ…

ビクッ

ビクッ

ビクッ

ビクッ

所詮ただの女だったな
帝国將軍エレナ・ヴァンヒルダ





あんっ♡

ああっ♡

しゅわっ♡

ドルム様のおちんぽ…っ♡
太くて気持ちいいですっ♡

ズッ

ズッ

ズッ

ズッ

んっ

んっ



徹底的に蹂躪されて…っ♥

し…支配させられてっ♥

心の底から…っ♥
完全屈服させられて…っ♥

私は…結局チンポ入れられて
ヨガることしかできない
女なんだと…っ思い知りましたっ♥

ズチッ

イクっ♥

ズチッ
グチッ

雌の悦び…教えてくれて
ありがとうございます…っ
ドルム様あっ♥



あぁっ♡

あぁっ♡

ズブッ

全身圧迫されて…っ♡
力の違いを感じるたびに
イ…イっちゃいます♡♡

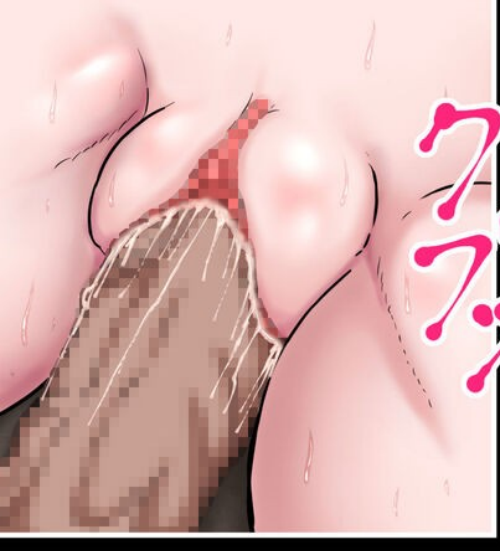
あっ♡

もっと…っ つぶしてっ♡
虫をつぶすみたいにつ♡
この虫けら女…
つぶしてくださいっ♡

あっ♡

グッ

イ…イくっ♡





ククク…
格の違い…十分理解した
ようだなエレナ

はひ…♡

徹底的に何度もドルム様に
叩きのめしていただいたことで♡

格の違い…♡
ちゃんと理解しました♡

私はただのイキった
勘違い馬鹿マンコ
だったんですっ♡♡

ブッポ

ジジッポ

ブッポ



エレナ
お前の役割は何だ？

快楽にヨガリ狂った
馬鹿メスが
二度と逆らうなよ

は…はひっ♡

屈強な殿方に…
ドルム様につ種付けして
もらう…ことですっ♡

ぶっといおちんぽ…っ♡♡♡
屈強チンポで
もっ…突いてっ♡
クソ雑魚マンコ屈服させて
くださいっ♡♡♡♡

あなたの従順なメス
にしてくださいっ！♡♡♡

ブ
チュッ

グ
チャッ

グ
フッ

グ
ブ
ブ

グ
チュッ







あっ♡

わあ...

♡♡♡♡♡

ズンボ

ああん♡

ドルム様っ
壊れちゃいますっ♡

ズンボ

身体の丈夫さだけが
取り柄のやつが何を言っている

もっ...申し訳
ございません...っ♡

バチッ

あん♡

あっ 首絞められて...
ま...また...っ♡



本当に性処理しか
使い道がない女だな
お前は

は...はひ...っ♡

身の程も知らず
ドルム様に愚かにも挑んで
完全敗北したクソ雑魚マンコ

完膚なきまで
痛めつけて下さい♡

この淫乱マゾ女を
もっともっと♡

ぎゅって首絞めて
お仕置きして下さいっ♡♡

ズナッ

バチッ

バチッ







あへ♡
あへっ♡

おおおっ♡

あぁ♡♡ 中出し♡
イッてる……っ♡♡
何度もっ♡♡

あっ♡♡ もっと痛めつけてっ♡♡
この淫乱マゾ女を……っ♡♡
もっと♡♡ もっと♡♡

イグっ♡

もっと♡♡
イきたいでしゅっ♡♡

ジッポ

ジッポ

イグっ♡

ブッポ

ジッポ



ククク…
すっかり肉便器として
馴染んできたな

ズチュッ

は…はいつ♥

もっと屈辱的に
ハメてください♥
もっと無様に
イかせてください♥

この淫乱マゾ女を
もっと♥♥

バチュッ

グチュッ

グチュッ







あぁっ…♥

ビクッ

あっ…♥

さて…俺の言うことは
何でも聞くように
なったようだな

頃合いだ お前には
もうひと働きしてもらおう

あへ…♥ あへっ♥
はい…♥ 何でも
言うこと…っ♥
聞きますっ…♥♥♥

あっ♥

イッ…

ビクッ

ビクッ

ビクッ

ビクッ

ザクルに侵攻したエレナ軍が壊滅したという
信じがたい報が帝都に届けられた

主力軍壊滅の報に帝国が戸惑っているさなか
今度はザクル軍が帝国に侵攻を開始した

慌てた帝国は
残された将と兵士で迎え撃った

火を吐く翼竜が帝都の空を覆い
巨大なオークが地上を練り歩く

ザクルは密かに魔族と手を組み
人間では到底かなわない力を
手に入れていたのだった

地下の魔道研究所で秘密裏に
人体実験を行い
魔族の強大な力を持った兵士を
作り上げていた

エレナを倒したドルムは
人体実験に耐え抜いた
兵士の一人であった



魔物の大群と
人体改造を受けたザクル兵の強さに
帝国軍は圧倒された

先頭に肉壁となって掲げられた
かつての将エレナの無惨な姿を見た
帝国兵の士気は喪失――

おおっ
❤



異形の者達を引き連れたザクル軍を前に
残された帝国軍も呆気なく壊滅

帝都は一日にして火の海に包まれた



END